

## 自ら問いをもち、共に学び合う授業

### ～子どもの追求を支える「新聞活用の在り方」～

長岡市立千手小学校

#### 1 NIE 実践のねらい

##### (1) 児童の実態から

当校でも、近年課題となっている「主体的な学びのある授業づくり」や「学んだことを子どもたちが実感していない」といったことが課題となっている。こうした実態を受け、昨年度の1年次は、上記のような研究主題と副題を設定し、子ども自身の問題意識を授業の中心に据え、個と集団の関わり合いの中で問題を解決していく授業づくりを目指すとともに、効果的な新聞活用の在り方について研修を進めてきた。その結果、以下のような結果が学習指導に関する児童アンケートから判明した。

【29年度の前期と後期の肯定的評価の比較】	(前期)	(後期)
・ 問いについて友だちの考えを比べながら考えた	86.5%	→ 93.9%
・ 授業中に「わかるようになった」、 「できるようになった」と感じながら学習した。	94.5%	→ 98.2%

「新聞を活用した授業実践」や「新聞に親しむ活動」を通して、身の回りの出来事や社会の動きに対して関心をもったり、新聞から得た情報をもとにして考えたりする子どもたちの姿が多く見られるようになった。また、新聞という情報の宝庫を授業の中で活用することで、問題解決に役立て、主体的に考えようとする学習意欲も高まっている。

##### (2) 社会的背景・学校教育の動向から

近年、多くの情報があふれ、ネット依存症や活字離れは社会的に大きな問題となっている。子どもたちを取り巻く情報も多種多様となり、一部の情報を信用し、情報を取捨選択したり、情報の正確性を吟味したりする力が低下してきていると指摘されている。

新学習指導要領では、全教科の指導方針を示す総則に、情報を活用する力を高めるために新聞を含む多様な資料を生かす方針が盛り込まれた。国語では読解力を伸ばすための指導、社会では産業について学んだり、実社会の課題を考察したりするための学習材として新聞を用いるよう明記されている。また、毎年実施されている全国学力・学習状況調査の学力調査と生活習慣などを尋ねるアンケートの結果から、新聞読解習慣と学力との間に相関関係があることが判明している。新聞で培った言語力が問題文の理解につながるだけでなく、社会への興味を育む上で新聞活用に大きな意義と価値があることが分かる。地域や社会の出来事に関心の高い子どもは正答率が高いという結果も出ている。これは、新聞活用を盛り込んだ新学習指導要領を推進する根拠となるデータと言える。

このような社会的背景と学校教育の動向から、「社会への興味・関心の喚起」「読解力の向上」「情報活用能力の育成」を柱とした新聞を活用した授業づくりが、重要であると言える。そこで、NIE 研究2年次となる今年度は、発達段階を踏まえた新聞活用の方法、目指す子ども像、身に付けるべき力を整理し、「主体的・対話的で深い学びのある授業づくり」と「新聞の活用方法の工夫」を研究の柱に据え、上記の研究主題を設定した。

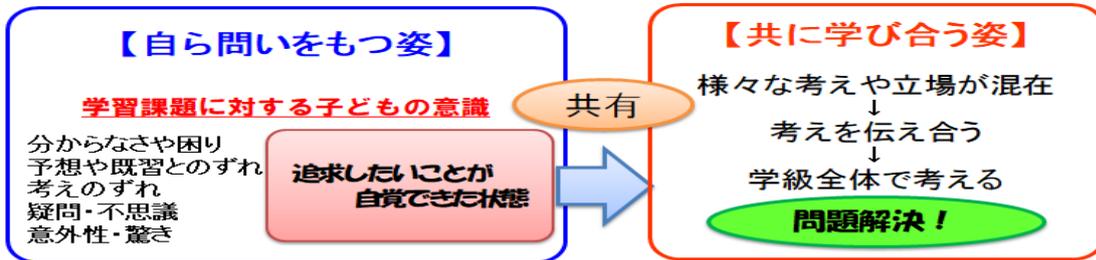
## 2 本年度の実践の概要

### (1) 目指す子ども像

#### 千手小学校における「◎問い」

→ 思いをもって課題や事象と関わろうとする子どもの主体的な追求問題

※この子どもの追求問題と教師の学ばせたい授業のねらいを近づけなければならぬ!

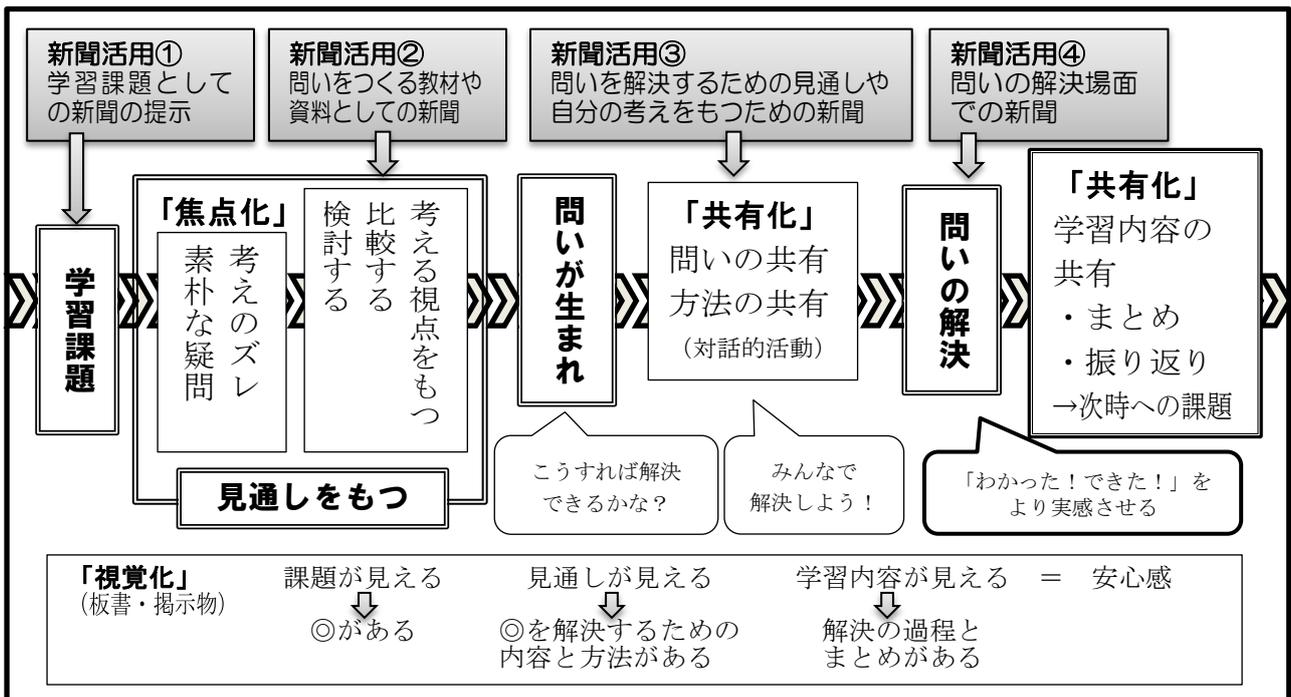


自ら問いをもつ姿	共に学び合う姿
<p>&lt;友達との関わりの中で&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習課題に対する疑問，意外性や驚き，考えの違い，予想や既習とのずれ，分らなさや困り。</li> <li>・友達の考えと自分の考えのずれ。</li> <li>・「問い」が生まれる。</li> </ul>	<p>&lt;友達との関わりの中で&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「問い」に対する自分なりの考えをもち，対話する。</li> <li>・対話の中で，新しい視点を見付け出す。</li> </ul>
<p>&lt;新聞との関わりの中で&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の認識・知識とのずれ。</li> <li>・記事に対する友達との受け止め方のずれ。</li> <li>・追求問題「問い」が生まれる。</li> </ul>	<p>&lt;新聞との関わりの中で&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞の情報を活用して自分なりの考えをつくる。</li> <li>・新聞を仲立ちにして，新しい視点を見出す。</li> </ul>

### (2) 研究内容

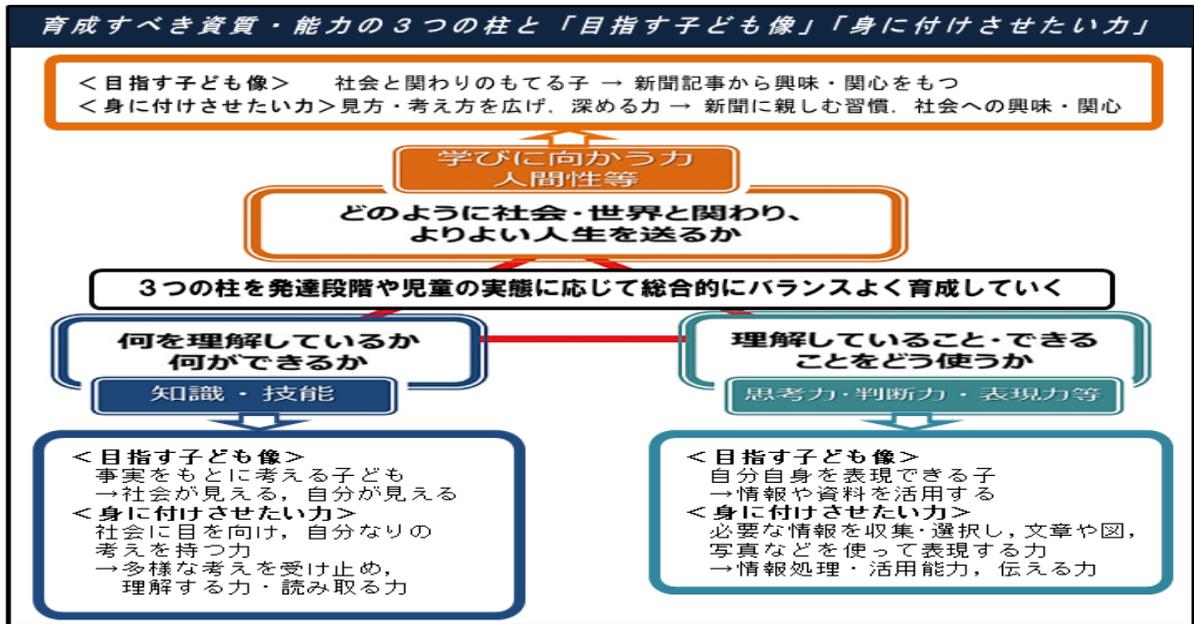
#### ① 問いをもとにした学び合う授業づくり

「千手スタイル」…1 単位時間の基本的な流れと新聞活用場面の具体化・共有化

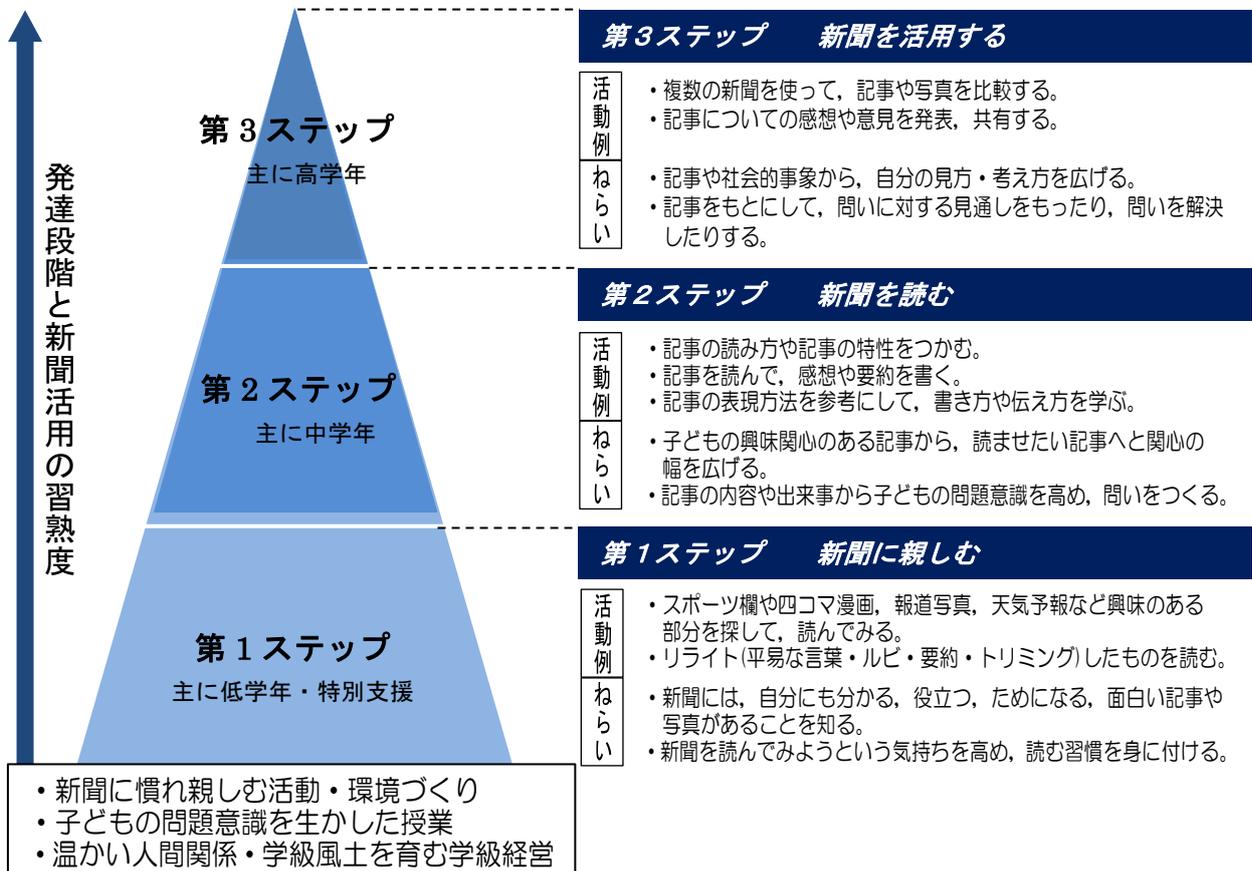


## ② 発達段階に合わせた新聞活用

当校では、新学習指導要領で明示された「育成すべき資質・能力の3つの柱」に基づき、発達段階に応じたNIEにおける「目指す子ども像」と「身に付けさせたい力」を整理し、授業改善を図る中で研究主題に迫ることにした。



小学校1年生から6年生までの間では、発達段階や社会事象への関心・意欲に差があり、ただ新聞を活用しただけでは教育的効果は期待できない。発達段階を踏まえた新聞の活用方法を整理しておく必要があるため、新聞を使った具体的な活動例やねらいを以下のような図で表す。



### (3) 研究の実際

#### ①1人1実践の授業研究

研究計画を受け、各職員が個人研修計画を作成し、1人1実践を行った。教科は限定せず、児童の実態や発達段階を踏まえた新聞活用の在り方を追求した。各実践は、研究紀要としてまとめ、研究発表会の際に参会者に配付した。

平成30年度 個人研修計画	
校外研究主題	4年1組 担任 朝 楓太郎 自ら問いをもち、共に学び合う授業(2年次) ～子どもの発達を支える「新聞活用の在り方」～
目指す子どもの姿	自ら問いをもち、共に学び合う子
個人研修テーマ	自分の考えを伝える態度を養い、質問の姿により学びの場を工夫する活動を通して、授業で自分の考えを分かりやすく表現しようとする子の育成
○子どもの実態と自分の学習到達の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 毎日の学校生活の中で起こる事実や事象に子どもが興味を示す場面が多い。その一方で、その内容を、主観に基づいた思い込みで捉えたり、感情的な反応を示す場面も少なくない。また、自分の考えを伝えたいという思いが強い場面や、自分の考えを伝えたいという思いが強い場面や、自分の考えを伝えたいという思いが強い場面も少なくない。</li> <li>● 日々の学習の中で、子どもたちの「考えを伝えたい」「伝えたい」という主体的な思いを促し、授業で表現できるように支援する。子どもたちの考えを伝えたいという思いを促し、授業で表現できるように支援する。</li> </ul>
○今年度の実践(目標達成のための手立て)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子どもの考えを「聞く」「聞く」「聞く」を繰り返す。例えば、「自分の考えを伝えたい」という思いを促すために、「文章にどうやって書いたらいいのかな」という問いかけをする。</li> <li>● 子どもの考えを「聞く」「聞く」「聞く」を繰り返す。例えば、「自分の考えを伝えたい」という思いを促すために、「文章にどうやって書いたらいいのかな」という問いかけをする。</li> </ul>
【手立て①】新聞の読んだ名前を自分の手帳に記入	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新聞の読んだ名前を自分の手帳に記入。</li> <li>● 新聞の読んだ名前を自分の手帳に記入。</li> </ul>
【手立て②】新聞の読んだ名前を自分の手帳に記入	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新聞の読んだ名前を自分の手帳に記入。</li> <li>● 新聞の読んだ名前を自分の手帳に記入。</li> </ul>
○新聞記事の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新聞の読んだ名前を自分の手帳に記入。</li> <li>● 新聞の読んだ名前を自分の手帳に記入。</li> </ul>
○新聞活用の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新聞の読んだ名前を自分の手帳に記入。</li> <li>● 新聞の読んだ名前を自分の手帳に記入。</li> </ul>
○新聞活用の具体的な実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新聞の読んだ名前を自分の手帳に記入。</li> <li>● 新聞の読んだ名前を自分の手帳に記入。</li> </ul>
○公開授業教科、単元、実施時期	教科：国語 単元：「My新聞をつくらう」 実施時期：6月下旬



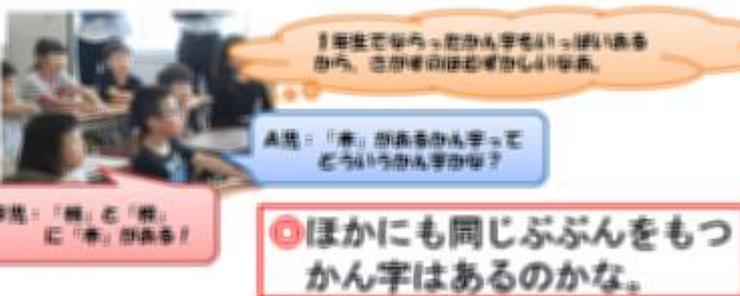
#### ②プレ授業研究会(6月20日・7月4日)

外部指導者を招聘し、事前の指導案検討会や授業公開後に指導を受け、課題を明らかにするために、職員全員が参観する全体公開授業を実施した。また、新聞活用の在り方はもちろん、指導者とのつながりが深まり、研究会に向けた課題や準備すべき事項が具体的になったことで、夏季休業中に研修や準備を計画的・意図的に行うことができた。

#### 【NIE プレ授業研究会 1】

- ◇期 日 6月20日(水)
- ◇公開学級 2年2組 千野 彩乃 教諭 「国語科」
- ◇指導者 新発田市立本田小学校 多田 和幸 校長先生

#### 2年2組 千野学級 国語科「かん字クイズをつくらう」



新潟日報子ども新聞ふむふむを提示し、漢字がたくさんあることを実感させ、習った漢字を想起させた。そこで、「木」がある漢字はありますか?と投げかけた。すると、A児のような分からなさ、B児のような気づきが出てきた。そこで、「探す難しさ」を共有することで、「ほかにも同じ部分をもつ漢字はあるのかな」という問いを焦点化させた。

## 【NIE プレ授業研究会 2】

- ◇期 日 7月4日（水）
- ◇公開学級 4年2組 大矢 彩乃 教諭 「外国語活動」
- ◇指 導 者 長岡市教育センター 下村 恵美 指導主事

4年2組 大矢学級 外国語活動「夢の時間割をつくろう」

〈学習課題〉世界の学校について知ろう。  
→世界の学校の様子が分かる新聞記事を提示

児童：「オーザン  
のレポートで授業、  
やってみよう！」

児童：「オーザンが  
自分で考えた時間割  
を決めると、  
いいなあ、早くも  
自分で考えたい呀。」

新聞の小学校の生活や学習への関心  
「自分たちの思いを生かした夢の時間割をつくろう！」

世界の学校の様子が分かる新聞記事を提示すると、子どもたちが登校のしかたに興味を示した。さらに、子どもの希望や実態に応じて時間割を決めるオーストラリアの時間割を見た児童は、「自分で時間割を考えたい」と発言した。新聞記事の提示によって、外国の小学校の生活や学習への関心を高め、「自分たちの思いを生かした夢の時間割づくりへの意欲」につなげることができた。

## 【NIE プレ授業研究会 3】

- ◇期 日 7月4日（水）
- ◇公開学級 5年2組 櫻井 諒 教諭 「社会科」
- ◇指 導 者 長岡市立川崎小学校 高橋 和人 校長先生

5年2組 櫻井学級 社会科  
「野菜をつくる人々～ナスから見る日本の農業～」

◎とれる量が少ないのに、農家の人が巾着なすを育てるのはなぜかな。

児童：「野菜でも巾着なすが  
ある、と書いてあるとい  
うことは、おくさん育て  
ているということかな？」

児童：「子どもたちに  
おくさん育ててみて、  
「おくさん」って  
書いてあるよ。」

新聞記事の記述から、問題解決に必要な情報を読み取る。  
→ナスの生産者や消費者の視点によって考えを深めにつなげた。

一般的な水なすと巾着なすの1株当たりの収穫量を比較することで、「とれる量が少ないのに、農家の人が巾着なすを育てるのはなぜかな」という問いを焦点化した。問題解決を図るための資料として、巾着なすについての記事をもとに、話し合う場を設定した。すると、新聞記事の記述から、問題解決に必要な情報を読み取ることで、なすの生産者や消費者の視点に立って考える姿につながった。

## ③NIE タイム

各学年で週に1回、新聞を読む時間を設定した。お気に入りの写真をスクラップする、新聞記事を読む、感想を書いたり伝え合ったりと、各学年の実態に応じた活動を行った。



#### ④親子 NIE タイム

6月の学習参観を「全校一斉のNIEタイム」として設定し、親子で新聞を使った学習を行った。保護者がNIEの取組を実際に目にする、子どもと一緒に活動することで、取組への理解を深め、新聞に対する興味関心を高めることができた。



**保護者にNIEの取組の実態を見ていただく。**  
→教育活動や取組への理解を深める。新聞に対する興味・関心を高める。

#### ⑤NIE コーナー・読書教育の充実

各階の廊下にNIEタイムのワークシートやおすすめの記事を紹介するコーナーを設置した。また、定期購読している新聞各紙を常設し、いつでもだれでも新聞が読める環境を整備した。

千手小学校の「知」「徳」「体」を支える基盤は、読書教育である。「おはなしのへや」「はかせのへや」という2つの図書室があり、読書講演会や図書館の土曜開放をはじめ、保護者や地域の方からの協力もいただき、千手っ子は読書が大好きである。

##### ◇各階にNIEコーナーを設置



**新聞に慣れ親しむ  
環境整備**

##### ◇保護者・地域と連携した読書教育



**様々な取組で  
本が大好きな  
千手っ子!**

〈保護者による読み聞かせ〉

〈読書講演会〉

〈保護者ボランティアによる図書室の整備〉

〈図書室の土曜開放〉

(4) 研究発表会での授業実践

① 2年生 国語科 「お話のさくしゃになろう ～世界に1冊だけの絵本作り～」



【問いを焦点化させる工夫】

お話のできごとが思いつかないという子どもたちの気持ちやどんなお話を作りたいかという思いを語らせた。

◎どんなできごとがおこると、ドキキ・わくわくしたお話になるのかな

【新聞活用の工夫】

生活科の学習で愛着をもったダンゴ虫が主人公であり、様々な生き物や植物が出てくる色彩豊かな新聞の挿絵をもとにして、アドバイスする場を設定することで、お話を豊かに想像させた。

② 4年生 外国語活動 「What do You want? ～オリジナルピザを考えて紹介しよう～」



【問いを焦点化させる工夫】

オリジナルピザの食材が複数必要だという意識を高め、それを得るために使う表現を知りたいという子どもの思いを生かした。

◎何と言えば必要な食材の個数を尋ねたり伝えたりできるかな

【新聞活用の工夫】

活動に必要な表現を知りたいと考えた子どもたちにとって、必要な英語表現が載った新聞記事を提示することで、ほしい食材の個数を尋ねたり伝えたりする表現を獲得し、活動の見通しをもたせた。

③ 5年生 社会科 「暮らしを支える日本の工業～消費者のニーズに応える製紙工場～」



【問いを焦点化させる工夫】

紙の需要減の理由に気付き、北越コーポレーションが紙容器の原紙の印刷能力を増加させた記事を提示した前時を受け、その時に子どもたちがもった疑問を本時で交流させた。

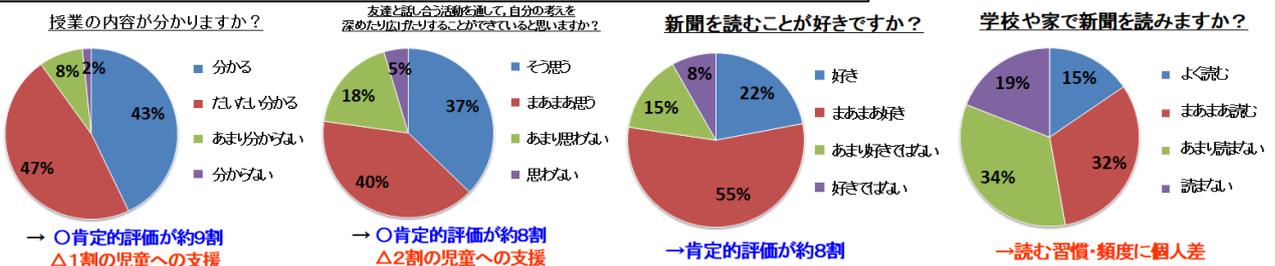
◎紙の需要は減っているのに、北越コーポレーションが印刷能力を増やしているのはなぜかな

【新聞活用の工夫】

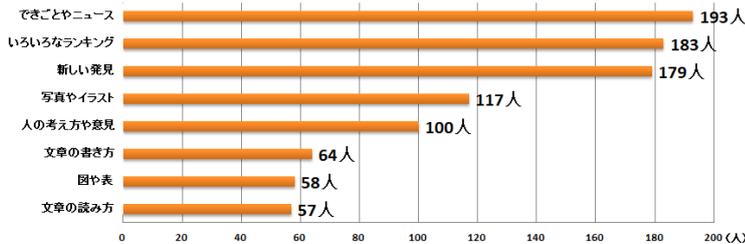
「プラ代替 紙製品が次ぐ」という新聞記事を提示することで、プラ代替による環境問題へ対応する世界的な流れによって、北越コーポレーションが紙容器の原紙の印刷能力を増やしているという点に気付かせる。

3 成果と課題

平成30年度10月 児童の意識（全校アンケート結果）



### 新聞を読んで、分かったことやためになったことは、どんなことですか？

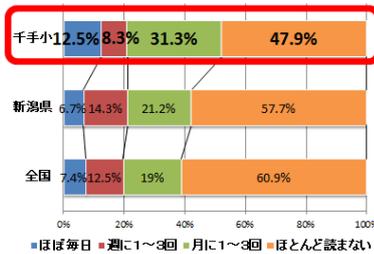


→社会事象への関心・情報を入手する手段・新たな発見をする有効なツール

全校アンケートから、授業改善による「分かる授業」「学び合う授業」に一定の成果があったと考える。また、新聞を活用した授業やNIEタイムの実施などによって、新聞に対して好意的に捉え、有効なツールとして活用していることが分かった。新聞を読む頻度や習慣については、個人差が見られ、改善の難しさが浮き彫りとなった。

### 平成30年度 全国学力・学習状況調査 児童質問紙（6年生）

#### 「新聞を読んでいますか」

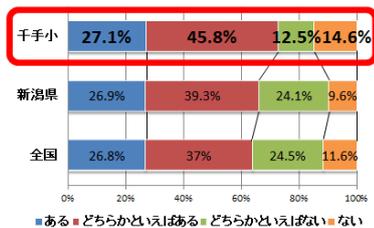


#### 「新聞を読んでいますか」

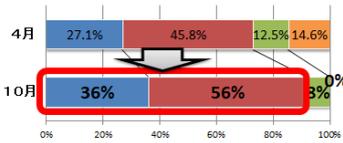


→新聞を読む習慣・頻度が増加

#### 「地域や社会で起きている問題や出来事に関心がありますか」



#### 「地域や社会で起きている問題や出来事に関心がありますか」



→社会への関心が大幅に増加

全国学力・学習状況調査の学力調査と児童質問紙の結果から、新聞を読む習慣と学力との間に相関関係があることが判明している。地域や社会への出来事に関心の高い子どもは正答率が高いという結果も出ている。

4月のデータでは、「新聞を読んでいますか」という質問項目で全国平均や県平均を上回った。さらに、半年間で研究による変容を把握するために、10月に6年生を対象に児童質問紙と同じ聞き方でアンケートを行った。半年の間に、新聞を読む習慣・頻度がさらに増加していることが分かった。

新聞を読む習慣・頻度に関連する質問項目に社会的事象への関心を問うものがあり、関心は平均に比べて高い一方、関心がないという割合も14.6%だった。10月の結果では、社会の問題や出来事に関心を示す割合が9割と大幅に増え、関心がないという割合が減少した。

### 児童アンケートの記述より

- ◇新聞を読むと色々な出来事が分かるし、新しい発見があって、読むのが好きになりました。
- ◇子ども新聞はふりがながあって読みやすく、色々なランキングがあっておもしろいです。
- ◇漢字の読み方や文の書き方がよく分かるようになりました。
- ◇写真があって見やすく、見出しで内容がすぐに分かって新聞って便利だなと思います。

### 職員アンケートの記述より

- 1時間の中で問いを焦点化させる意識が高まった。
- 「分からない」「困った」「なぜ？」という子どもの意識をもとに、学級全体で考えていく授業スタイルが以前よりできるようになってきた。
- 長い文章に抵抗を感じずに読む子どもが増えた。
- 休み時間など普段から新聞に興味をもって読む子どもが増えた。
- 「新聞＝情報を得るための道具」という認識が定着した。
- △導入や興味をもたせる場面では新聞は使いやすいが、問題解決の場面での教材化が難しい。
- △記事の提示の仕方、ねらいに合った記事の検索が難しかった。

2年間の研究で得られた成果を今後も生かすとともに、課題を職員一丸となって改善し、千手っ子の学力向上と新聞のさらなる有効活用の在り方を追求していきたい。